

特集：鎌倉・湘南景観フォーラムと連携して

身近な「コミュニティ景観」を向上させよう

平成27年4月25日（土）、鎌倉市材木座の歴史的建造物「座やまのべ」で開かれた「座やまのべ」談話室に彦根景観フォーラムから会員6名が参加し、鎌倉・湘南景観フォーラムの15名近い皆さんと身近な景観の維持向上について意見を交換し、今後の連携を約束しました。

一般社団法人鎌倉・湘南景観フォーラムは、2014年6月に設立されました。代表理事は、彦根景観フォーラムの前理事長で、元滋賀大学教授の山崎一眞さんと、日本女子大学教授の故小谷部育子さんとともに設立されました。



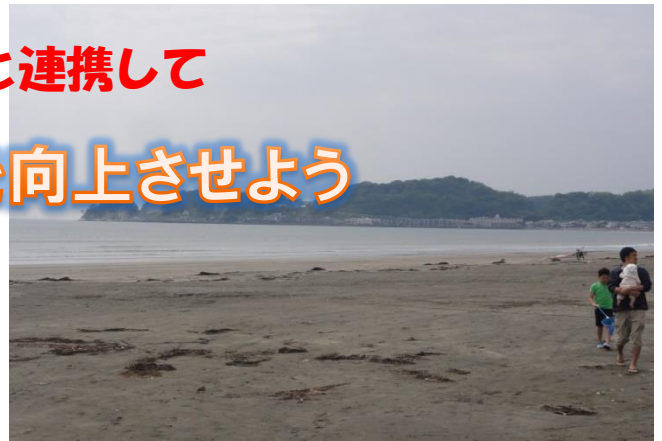
フォーラムの目的は、鎌倉・湘南の景観と生活環境を、住民自ら考え、活かし、守り育て、慈しみ、未来に向かって働きかけていく仕組みづくりと実践を行うことです。

主に3つの事業を実施されています。

- ① 歴史的建造物の維持・活用の事業
- ② コミュニティ景観の維持向上に向けた、人とひと、家とまちをつなぐ事業
- ③ コミュニティ景観の維持向上に向けた、研究・啓発に係る事業

歴史的建造物「座やまのべ」の維持・活用

鎌倉市材木座にある「座やまのべ」は、昭和初期に建てられた築80年の民家で、鎌倉・湘南景観フ



フォーラムの事務所となっています。

住人でもある山崎氏は、この建物の和室と前庭を地域に開放して、まちづくりに提供しておられます。

前庭は、かつてあった門と塀を撤去して、通りに違和感なく開放され、花と緑の美しい植え込み空間にはベンチも設けられて、腰を下ろして雑談することができます。

和室は、かつて別荘であった面影が残り、座敷には床の間、違い棚、付け書院が備えられ、もう一つの和室が続く「続き間」形式です。和室の外に廊下が廻り、硝子障子の外側には建物を囲むように庭が巡り、室内のどこからでも緑を鑑賞できる「庭屋一如」の近代和風建築です。

この建物自体が、鎌倉の恵まれた自然の中で、歴史と文化に裏付けられて存在する建物と庭を大切に、新しいものを付け加えて次世代につないでいくための一つのモデルになると思われました。

人とひと、家とまちをつなぐ事業

人とひと、家とまちをつなぐ事業として「座やまのべ」談話室が開催されています。

この談話室は、2013年9月から、毎月第四土曜日に開催し、計12回の積み重ねとなっています。誰もが参加でき、参加者が語り部となり、自分が楽しみで行っている活動を紹介し、それを種にみんなで語り合い、多くの人が共感しつながって新たな活





動が生れる泉となることを意図されています。これは、彦根景観フォーラムが寺子屋力石で行っていた談話室「それぞれの彦根物語」とほぼ

同じと思われました。

この日は、「座やまのべ」談話室の1年間を振り返って、成果を確認し、運営上の課題と対応が話し合われました。これまでの談話のテーマは、文化的・美的な経験と身近なコミュニティ景観に収められてきており、コミュニティ景観の維持向上に向けた新しい活動が提案されました。

昭和初期民家の調査プロジェクト



鎌倉には、明治の海洋保養地を出発点とした別荘地や文人たちの居住地があり、今でも往時の面影をとどめ

ています。門と生垣・竹垣で囲われた適度な庭があり、その奥にある民家は、床の間のある和室、硝子障子の縁側、瓦屋根、下見板張りの外観で、「山の音」、「波の音」が聞こえる家です。

中流向けの民家で、贅を尽くしたものでなく、規模も小さく、建築後100年に満たないものです。それゆえ文化財という意識がなく、近年、次々に建て替えられつつあります。

鎌倉・湘南景観フォーラムでは、これらの住宅群こそ鎌倉の原風景であり、その保存活用はまちづくりに欠かせない要素であるとして、昭和初期建築の民家の実態調査を開始することが決定されました。



その上で文化歴史的価値の検証、保全のための法制度の活用と提案、再生利用の検討などを検討するとして、民家所有者、専門家、建築や歴史を学ぶ学生などの参加・協力を求めることになりました。

彦根景観フォーラムとの研究・啓発の連携

コミュニティ景観の維持向上に向けた研究・啓発事業は、彦根景観フォーラムと連携して進めることとし、当面、お互いの活動を知る、共同して調査研究する、ホームページにリンクを貼る、年に1回持ち回りで研究集会を開き成果を発信することなどが提案されました。



彦根景観フォーラムでは、濱崎理事長が設立の経過や目的、花しょうぶ通り商店街の活性化を紹介し、松居事務局長が運営について、笠原啓史さんから芹橋の彦根藩足軽屋敷群の保存活用と地域防災について、中川信子さんから多賀の庄屋屋敷の農家レストラン活用について、江竜美子さんからは古民家を活用した逋信舎について、堀部栄次さんからは、広報や啓発、彦根の景観の課題が報告されました。

その後の意見交換では、旧鎌倉図書館が取り壊されようとしていることが話題となり、彦根や多賀での取り壊しの経験も紹介しました。

交流会では、郷土の歴史や遺構がコミュニティ景観にとって重要で、彦根ではまち育てに活かされていることが分かったと評価をいただきました。

